

I 目指す学校

1 目指す学校像

- (1) 底力のある学校 <組織力の向上>
- (2) 児童の可能性を引き出す学校 <主体的に自己を高める>
- (3) 家庭・地域と共にある学校 <社会全体の教育力を高める>

2 目指す児童像（教育目標）

- (1) よく考えて勉強する児童（知）・・・重点目標
- (2) 思いやりのある清らかな児童（徳）
- (3) 健康で明るい児童（体）

3 目指す教師像

- (1) 社会の常識をもち、教育公務員として全体の奉仕者であると自覚し行動する教師
- (2) 常に研修に励み、指導力の向上を目指す教師
- (3) 家庭との連携を充実し、児童理解に基づいた指導により、個々の児童の成長を図ることのできる教師
- (4) 教育課題の解決に向け、組織的な学校運営に参画する教師

<服務について>

組織的な学校運営の推進と服務について

- (1) 各職種に応じた職務を適切に執行する。
 - ① 業務進行管理の点検・整理、業務進行の際の事案決定手順の徹底を図る。
 - ② 市の環境基本計画に基づき、コスト削減、資源節約に全教職員で務める。
- (2) 服務事故防止に努める。
 - ① 体罰や交通事故等の服務事故の発生を未然に防止するため、職員会議等において月 1 回以上、研修を実施する。
 - ② 私費会計及び、個人情報の取り扱い規定を徹底し、毎月の確認と改善点の検討を推進する。

国が進める教育振興基本計画では、「ウェルビーイングの向上」をめざしている。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福をつかむ概念を示す。

<具体的にに取り組む教育活動例>

- 個別最適な学びと協働的な学び、確かな学力の育成
- 特別支援教育、いじめ・不登校対応
- 地域や家庭で共に学び合う環境整備
- キャリア教育・職業教育、課題解決型学習
- 豊かな心、健やかな体の育成、安全教育
- 国際交流、多文化共生等

（関連する主観的指標） 児童の姿

- 自分には良いところがある
 - 将来の夢や希望を持っている
 - 授業の内容がよくわかる
 - 勉強は好きと思う
 - 自分の幸福感
 - 友達関係の満足度
 - 自分と違う意見について考えるのは楽しい
 - 人が困っているときは進んで助けている
 - 学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める。
 - 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
 - 先生は自分のいいところを認めてくれる
 - 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
- 本校は、以下の中期的目標と方策を掲げ、教育活動全体を通じてウェルビーイングの向上に努める。

カッコ内は、主な教育活動を記述した。
指標の◎は、年度末評価の肯定的意見%。

II 中期的目標と方策

◎今年度の取組目標と方策 (1)教育活動の目標と方策 (2) 重点目標と方策を示す。本計画は、令和5年度の教育課程の重点事項を明確にしたものである。

構 想	重点事項	中期的な取組目標	目標達成のための具体的な手立て	指 標
学校の底力をつける <組織力の向上>	1 安全教育、防災教育の充実	児童が危険を予測し回避する能力等を高める。	○「日常的な安全指導」における一声（ひとこえ）指導の徹底を図る。 （都安全教育プログラムの活用） SNSによるネットトラブルの防止、携帯電話の家庭ルールの呼びかけを行う。 ○ 児童の発達段階に応じて「自助」「共助」の知識と実践力を高める防災教育の充実を図る。	○自己評価 ○安全に対する児童の意識の変化 ◎保護者、地域の肯定評価 安全管理→97. 1%
① 「生活指導は全員であたる」との基本姿勢のもと、日々、職員夕会等で生活上の課題を全職員で共有し、安全指導・生活指導を積み重ねていった。 ② 特設単元の安全授業や避難訓練を組織として、年間を通して計画的に実施していった。また、1学期の「八王子市いのちの大切さを共に考える日」や2学期の道徳授業地区公開講座では、本校は生命尊重を重点項目とし、公開授業を行った。今後も交通安全、生活安全、災害安全などの授業について、東京都安全教育プログラムを参考にして発達段階に沿った指導を重ねていく。 ③ 保護者へSNSについて書面等で利用の注意喚起し、家庭ルールをつくって児童にパソコン、携帯等を利用させるよう促す。（1学期に保護者向けにSNS注意喚起の資料を作成し配布した。）				

	2	道徳教育、 キャリア教育の 充実	特別活動等の充実と 再構築を図る。	○児童会、委員会活動、たてわり遊び等を通して、系統的にリーダー、フォロワー等の育成を図る。発表の場を工夫し、児童の自尊感情を高める。 ○自尊感情や自己肯定感を高める「いいところ応援計画」を発達段階に沿って1学年1実践継続して取り組む。（あったか言葉、ブレインストーミング、ボランティア、いいところ見つけ発表等）	○発表や活動の場を提供 ○自尊感情や自己肯定感に関する意識調査 ◎たてわり→96.4% 道徳教育→94.2% キャリア教育→94.9%
	① 児童会、委員会活動、「ふれあいタイム」たてわり遊びを通して、系統的にリーダー等の育成を図り、児童の活躍の場を広げ、自尊感情を高めるように配慮した。 ② 年間35時間の「特別の教科 道徳」の授業を要に、各教科・活動と連携し道徳教育の充実を図っていった。特に全校で時期を設定し、「命を大切にする学習」を関連付けて指導を行った。 また、特別活動においてはキャリア・パスポートを保護者と連携しながら今年度も積み重ね、児童へ励ましを続けている。				
	3	環境美化の推進	課題意識をもち、具体的に動くことのできる体制の整備を進める。	○教室、廊下の掲示物の工夫、花植え、栽培活動（大和田っ子ガーデン）等を通して、環境の変化に気付くよう、指導を工夫する。 ○ 集中し、日常の清掃活動ができるよう指導の徹底を図る。	○学校関係者、外部評価
児童の可能性を引き出す 〈主体的に学び自己を高める〉	① 学校は約400名の児童が共に生活する生活環境にある。教職員、児童が分担して、清掃用具を有効に使い教室内外の清掃に努めている。 ② 保護者地域と連携しながら通年実施される農業体験、大和田っ子ガーデン、花壇整備等を通して、児童の体験的な活動の場を設けることができた。参加運営については、毎年検討していく。				
	4	GIGA スクール構想の推進（授業改善）	組織として、質の高い授業づくりを目指す体制を構築する。	○授業の土台となる系統的な指導内容の徹底を図る。 ○校内研究を通し、ユニバーサル・デザイン等を意識した「わかりやすい教え方」への改善を図る。 ○新学習指導要領の意義を踏まえると共に、OJT指導体制や教職員の相互の学び合いを活発にする。	◎ICT→89.8% ◎児童による授業評価等 〈児童アンケートより〉 先生の教え方はわかりやすい。→93.9%
	① 研修・研究を通して、GIGA スクール構想を進めている。 全学級が一人一台の学習端末を活用した授業を系統的に行い、GIGA構想を共有している。誰もが分かりやすい授業をめざす「ユニバーサル・デザイン」の視点を基盤として授業を積み重ねている。年度末に研究主任を中心に「成果と課題」をまとめ、次年度の研究教科も決めていく。				
	② ICT支援員（富士ITソリューション）と連携を図り、日々の授業の指導に協力を依頼していく。 今年度は算数科を通して指導力向上をめざし大学や東京都教育委員会から外部講師を招聘して低・中・高学年の3回の授業公開を軸に校内研究を行った。 また、放課後、情報担当により校内OJT研修を行い、情報機器活用の指導力を高めるよう努めた。				

	5 生活指導の充実	授業規律の確立と基本的な生活習慣の定着を図る。	○児童理解、人権意識を基盤とした指導を通して、児童がより豊かな人間関係を結ぶための場づくりを進める。 ○聴く指導の徹底を図り、ＴＰＯに応じた言動ができるよう指導する。 ○「特別の教科 道徳」の授業を要に道徳教育を積み重ねると共に、「いじめ防止基本方針」に沿っていじめ防止に努める。	○学校関係者評価 ◎生活指導 →94. 2% いじめ防止 →83. 4% (10. 1%わからない)
	① 授業中や朝会等、あらゆる場所を通して、話を聴く（聞く）姿勢を繰り返し指導している。また、言語環境を整え、正しい言葉使いや礼儀等の指導を心掛けるように適宜指導した。 また、「大和田小生活スタンダード（教師用）」等を教職員間で共通理解し、指導を継続している。 ② 「いじめ防止基本方針」に沿って、学期毎の「ふれあい月間」のアンケート実施や日常の観察を行った。毎週火曜日午後の「いじめ対策委員会」を開催し、情報共有と対応の方向性を確認した。 いじめ状況把握は市教育委員会と適宜共有し、関係機関、スクールカウンセラーとも連携を図り対応を重ねている。 ③ ふれあい月間アンケートの中で、「相談できる大人のひと」の存在を把握し、いないと答えた児童には、担任が聞き取り、相談するようにしている。今後も毎回意識して継続していく。			
	6 特別支援教育の充実	組織的な指導体制を確立する。	○スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターを核とした校内委員会を中心に支援を検討し、授業レベルで個に応じた具体的な指導を進める。	○個別の指導方針の明確化 ◎特別支援教育79. 7% (19. 6%わからない)
	① 毎月の校内委員会を中心に、支援の必要な児童への対応を協議している。参加者は、管理職、特別支援コーディネーター2名（うち養護教諭一名）、スクールカウンセラー（ＳＣ）、該当学級もしくは学年担任である。また通級指導の担任にも、可能な範囲で参加をしてもらっている。今年度も1学期に、5年生全員がスクールカウンセラーと面談を実施した。 ② 通級指導学級、きこえとことば教室と担任が連携する巡回訪問を学期毎に実施している。また、通級学級の教員に、本校児童の授業の様子を観察してもらうと共に、個に応じた指導ができるよう情報交換を行っている。市教育センターの就学相談室とは、再度連携を徹底したい。次年度も継続・新規を含め「さくら」（特別支援教室）を円滑にスタートできるように準備をしている。第八小学校と連携を図りながら、「さくら」の活動を保護者へ伝え、指導の充実を図っていく。さらに児童の実態を把握し個に応じた指導を図れるよう努める。			
	7 体育、健康教育の充実	体力の向上と基本的な生活習慣の定着を図る。	○体力テストの分析結果を体育の補強運動に取り入れるなど指導を工夫する。 ○基本的な生活習慣の定着のため、あいさつ、歯みがき、早寝、早起き、朝ごはん等の重点実施期間を設け、家庭と連携し習慣化を支援する。	○翌年の調査結果 ○重点実施期間の達成状況 ◎「健康づくり」 東京都教育委員会表彰受賞
	① 1学期は体力テストを実施し、体力の実態を把握した。そして、その結果を踏まえ、事後の体育指導に補強運動を取り入れるなどして体づくりをしている。 2学期は、「長なわ集会」を設けた。他者との比較ではなく各学級で決めた目標に向かってなかよく練習するようにした。 3学期は、1月にマラソン週間を設け、寒さに負けない体づくりを校庭で行った。 ② 担任と養護教諭が連携し、食事・睡眠等の重要性を学び、基本的な生活習慣を身に付けさせるよう健康教育を指導した。また、6月・9月頃に「健康な生活習慣」カードを配布し、家庭と連携を取り、基本的な生活習慣を確立できるよう啓発に努めた。また身体計測後、保健室のその場で養護教諭が健康教育を発達段階に合わせて実施した。 ③ 学校医による保護者対象の教育相談（内科、歯科）、薬剤師による喫煙、飲酒や薬物乱用防止等の指導、養護教諭による「がん教育」等の保健指導を実施することができた。 様々な活動が、東京都教育委員会より認められ、表彰された。次年度も同様に健康づくりの教育活動を行っていく。（令和7年1月15日（水）※小学校は全都で2校表彰。）			

家庭・地域と共にある学校づくり <社会全体の教育力を高める>	8	学校運営協議会との連携	学校の情報発信と学校運営協議会のより一層の充実を図る。 ○学校だより、ホームページ等の作成を組織的に行う体制作りを進める。 保護者の意識啓発として効果的な活用を進める。 ○学校運営協議会を学校と地域の相互課題を検討する場としての機能をもたせるなど、保護者、地域と共に教育活動を推進する。	○目標更新回数、課題解決の過程 ◎情報発信 95%
	① ホームページの学校日記等で、日常の児童の生活や活躍を日々紹介する。その日記の中で、学校運営協議会、関係機関・団体や各種ゲストティーチャーによる学習支援等も紹介している。 今後も有効に保護者への情報提供にホームページやメール配信の活用をしていく。 ② 学校運営協議会と連携を図りながら、2回の漢字検定と大和田っ子ガーデン等を実施した。今年度の成果と課題を踏まえ、次年度、学校運営協議会と協議し、取り組んでいく。			
	9	地域と共にある学校づくりの推進	9年間の学びと育ちを地域と共に考える。 ○授業改善につながる、小・中一貫教育のより一層の充実を図る。 ○幼稚園、保育園、学童保育、地域スポーツ、文化活動の団体等との連携を深める。	○学校関係者評価 ◎第一中との小中一貫教育 78.3% (21.7%わからない)
	① 小中一貫教育の学区は、第一中学校、第八小学校、大和田小学校、高倉小学校の4校が連携している。4校が各学期に小中の定期的な情報交換を行っている。 保幼小交流では、近隣の二つの保育園と交流を2月5日（水）に実施した。次年度も職員や児童・園児・中学校との交流等を通して保小連携を継続していく。 ② 青少年対策委員会との連携に努め、児童の健全育成を図っている。→10月12日（土）5年ぶりに青少対委の地域コンサートに本校音楽クラブの希望児童も演奏参加した。 ③ 様々な団体から外部のゲストティーチャーを招き、児童が楽しく学べるよう今後も授業の充実を図っていく。 ※ 今年度は、八王子車人形、ヤクルト、多摩動物公園職員、学校医・学校薬剤師、近隣農家やJAの皆様、八王子消防署、八王子警察、市役所交通課、地域の皆様等を招聘した。			
	10	学び合いの場の充実	○学校司書を活用し、利用マナーを指導し、保護者と連携を図り、稼働率の高い学校図書館にする。 ○図書ボランティア、学校司書と連携を図り、読書活動を活発にする。	○貸出冊数、実施回数、児童の変容 ①②により、継続した読書活動ができた。
	① 図書ボランティアの皆様の年間を通した図書室の整備活動に深く感謝を申し上げます。 ② 図書司書が毎週火曜日、児童に季節に合わせた読み聞かせ活動や本の紹介をするなどして興味・関心を高め、図書室の稼働率を高めた。			

【令和7年3月21日】